

つくしだよりから

さいごのお誕生会

この原稿を書いている今ちょうど、3月お誕生会が終わったところ。

今回、誕生月5人のうち4人が年長さんでした。呼ばれて前にすすみでた6歳の立ち姿はみなしつかりして

「大きくなつたな〜」

思わず、おじいちゃんのような感想を口にしてしまいました。

4月、年長さんはまだ幼さが残っていました。初夏一緒にいった遠足、キャンプ、つくしまつり。家族が見守るなか心をこめて演じたクリスマスマスページェント。大雪の恩恵？をうけたびわ湖バレ―では真っ白になってすべり、帰りのバスは満足げな、かわいい寝顔の花がしずかに咲いていた。

何より、いつもの仲間たちと毎日すごし、遊びを積み重ねて感じ取った、数えきれないほどの心のページが今のみんなを育んできました。

あらためて今、ことし最後のお誕生会を終えて、つくしの子どもたちって、すばらしい、と思う。とくに、お話をきくとき、心をひらいて全身で聞き入れようとする。

園長による関東弁の、聖書のお話しにも毎回耳をすましてくれた。保育士演じた、ほんなり上方ことばのパネルシアター「じごくのそうべえ」に心わくわく。ときに、せりふを暗記して、演者といっしょに語りだす場面も。胸いっぱいになった瞬間でした。

もうすぐ巣立って行くきみたちの心の奥にはいつまでもつくしが息吹いているのです。